

H30年度 学校評価結果公表シート

学校法人 廣瀬学園

認定こども園 名張よさみ幼稚園

当園では、平成30年度の幼保連携認定こども園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施致しました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園経営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。

今年度の学校評価結果を活かし、幼保連携こども園として更なる教育保育の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」 自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 強い身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動、行事などを通して)
3. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流、地域交流を通じて)
4. 豊かな感性と想像力を養う。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「すみません」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「ありがとうございます」とい 感謝の心
 - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。

幼保連携型認定こども園として、0歳から就学前までの発達や学びの連続性を考慮した教育・保育を展開し、自ら考え行動し表現できる子どもの育成に努める。そのために、子どもの主体的な活動や多様な体験を保障し、友だちや保育者とのやりとりなどで自らの考えを広げ、気づきや工夫する体験が次の体験と結びついていくような環境を整える。また、自園給食を生かした食育を保育に積極的に取り入れ、幼児期における食の重要性を考慮した上で、教育内容を深めていくよう努める。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
1 教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。また、その為にどのような取り組みがなされているか。	A	<p>・教育保育要領の理解を深め、園の教育保育方針や目標に基づいて、教育保育が実践できるように、職員間で話し合いや研修を重ねている。(毎日の朝礼、終礼、職員会議、リーダー会議、学年会議、乳児会議など)</p> <p>その中で、職員ひとり一人が教育・保育の在り方を再確認し、職員間で共通理解を深め、園の教育方針に沿うように進めている。</p> <p>・各行事ごとに会議を持ち、常に園の方針と、その行事を通して、子どもの何を育てたいかの思いを中心に、変化する今の社会や保護者の考えにも適応し、実践している。</p>
2 指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	A	<p>・認定こども園教育・保育要領、並びに園の教育保育過程を基盤とし、乳幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、主体的な学びの実現を念頭に、カリキュラムを作成している。</p> <p>・日案、週案、月案は、学年ごとに会議を行い作成し、教職員間で共通理解を図っている。日々の振り返り、反省の日記はもちろんのこと、週案の振り返りを行い、ポイントを日記にも記入し、次週に繋がるように取り組んでいる。</p> <p>・保育内容の振り返りや、疑問については、職員会議において話し合って討論している。</p> <p>週案作成時には、保育内容や自由保育と設定保育のバランスを考え、遊びの継続を配慮した計画を作成している。</p>
3 教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為にどのような取り組みを行っているか。	B	<p>・子どもたちが、日々の生活の中で異年齢の交流がもてるような年齢の子どもも、自分のクラスだけに留まらず、自由に保育室を行き来し遊ぶ環境づくりを意識している。</p> <p>異年齢交流(スマイルデー)の実践を通し、私たちの役割、関わり方、導き方の大切さと、職員間の連携が必要であり情報交換を行っている。</p> <p>・環境構成については、子ども達の遊びの様子を観察し、遊びが持続したり発展するような、きっかけづくりを重視し、言葉がけを意識的に行っている。子どもからの自発的な要求をみのがさないようにしている。</p>
4 指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	<p>・様々な遊びを通し、個々が主体的に活動できるよう準備物や環境を整えている。</p> <p>年齢に応じた導入、興味づけの大切さを考え、「やりたい」という気持ちに寄り添い、出来た時の喜びを大切にしている。</p> <p>・音楽や、体育遊びなど身体全体を使った動的な遊びと造形・絵画・茶道などの静的活動の保育を総合的に実践している。</p>

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
5 研修・研究への 取り組み	研修・研究への取り組みが十分に 行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実を図るため、年数回の公開保育を実施し職員の意識を高めていけるようにしている。 「子どものみとり」を中心に、子ども理解を深めるため 終礼時に話し合い、意見交換をしている。 ・カリキュラムマネジメントの観点から、職員の教育・保育への振り返りの着眼点がどのように向上していくかを、副園長、主任が把握しながら、一人ひとりの職員に次の課題を見出せるように、指導している。 ・外部研修にも積極的に参加し、キャリアアップをはかっている。
6 安全管理体制の整備	安全管理の為の体制は十分に 整っているか。 また、具体的にどのような取り組み を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年12回、防犯研修を実施し、災害や不審者侵入時に備えている。 ・来園者への園内立入証の携帯を義務付けている。 ・正門付近の防犯カメラの設置、警備会社との連携を行っている。 ・地域の緊急情報にも速やかに対応し、保護者にメール配信できるシステムを整備している。 ・食物アレルギーについては、栄養士と保護者との面談を徹底し、アレルギーの子どもにも安心して給食を提供している。 ・保育室や遊具の点検は毎日行い、安全チェック表に記入し、不備は即対応するようにしている。 ・災害時の水・食料等を備蓄している。
7 衛生管理体制の 整備	衛生管理の為の体制は十分に 整っているか。また、具体的に どのような取り組みを行っているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登園、降園時の視診や、園児の様子に応じ、検温を実施している。 ・保育室には、空気清浄機を設置し、園児の健康管理の一助としている。 ・園内に消毒を設置し、外部からの来園者にも積極的に使用してもらっている。 ・特に、乳児の玩具やトイレの消毒を毎日徹底している。 ・嘔吐の処理のマニュアルの確認と徹底を行い、共通理解している。 嘔吐した場合に、即座に処置できるよう、嘔吐処理グッズを、各保育室に設置している。 ・給食など食品を扱う時は、手袋・マスク・エプロンを着用し、衛生面に注意を払っている。
8 地域の人々、 自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを 積極的に持つことができているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人ホームへ訪問し、お年寄りの方との触れ合いの場を設けている。 ・田植えや、稲刈りの仕方を地域の方から学び、体験させてもらう事でお米の生長に興味をもつ機会にしたり、各クラスの花壇に季節にあった植物や野菜を植え育てている。 ・地域の小学校へ遊びに行かせてもらうなど、幼小の交流を持ちったり、中学生の職場体験を受け入れ、協力している。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の大切さを再認識するとともに、常に子どもの姿と照らし合わせたり、振り返りながら話し合いをする機会を増やし、子どもを見る目や職員の資質を高めたい。 日常の保育の中で、主任・リーダーは各クラスの保育内容などを助言する機会が多いので、指導計画の確認を確認し、最善に出来る様努力する必要がある。
2	研修・研究への取り組み	公開保間、チーム保育などの在り方を見直し、職員間で子ども理解を深めていけるようにしていきたい。 そのために、公開保育の取り組み方としては、保育内容はもちろんのことではあるが、保育者の関わりや環境設定が、どのように子どもの育ちに繋がるかを、職員間で語り合える場を多く持ちたい。 また、主体的・対話的な深い学びに繋がる遊びが発展していくためには、保育教諭がいかにか配慮し、環境を設定していくかを考え、保育の質の向上に励んでいく。
3	安全管理体制の整備	毎月の避難訓練と職員の消火訓練等、充実しているが、災害時の対応について、保護者への啓発を行い、災害時に活かせる連携体制を整えたい。具体的には、災害時の保護者への園児の引き渡し訓練等も計画し、実施したい。
4	保護者に対する情報発信	保護者への情報発信は、手紙、えんだより、その他のつうしん、ホームページにより行っている。 園の保育のねらいや、保育者の思い、子どもの育ちの過程などを、保護者に伝えることで、保護者に子どもの育ちの過程の大切さを感じてもらえるようにさらに、手紙を通し、園の保育が見えるよう工夫したい。 子ども理解が、保護者の子育てへの不安を解消することにもつながると考えている。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。

この学校評価での反省を活かして、来年度さらに向上されていることを期待しています。